

政治家側だと思いま
す。(もし仮に、側近
の苦言を受け入れる度
量が普段から安倍首相
にあれば、「アベノマ
スク」は違う展開に
なったことではしよ
う。)

最後、3つ目。文科

大臣は「理想と現実のギャップを埋められなかった」旨の発言をされました。入試改革の理念は良くとも、そのための制度設計や現場レベルでの詰めが甘かったという事です。「現場に真理あり」「細部に神宿る」と言います。官僚がどんなに優秀でも、霞が関の会議室や頭の中だけで物事を考えていては、それを受け止める現場の感覚や実態と乖離し、失敗します。その官僚に、民意や現場の声を届けるのは、政治家の重要な努めです。

以上3点は、われわれ政治家の問題です。私自身も、一政治家、そして大分県民の代理として、変えていかなくてはなりません。私は無所属かつ新人ゆえにまだまだ微力ではあるのですが、事実や現場の声を前に、大臣とか新人とか、何の関係もないと思っています。国会審議では、自分の言葉で現場や地方の声を



内心はドキドキしながらの質問

伝えることはもちろん、例えば、「なぜ大臣はアベノマスクをしないのですか？」など国民・県民の皆さんが疑問に思っていることを、「おかしいものは、おかしい」と率直に質問や意見をしよう心がけています。「大分県民の皆さんが、なぜ自分を選んでくださったのか?」。いつも私の頭の中で反芻(はんすう)しています。さきほどの入試改革問題ですが、身の丈発言があったとはいえ、最後に国を動かしたのは、当事者となる高校生たちの切実な意見やSNSでの情報発信です。当事者の言葉には重みがあります。「一人の力は微力でも、決して無力ではない。集まれば大きな力になる」ことをあらためて実感しました。5月の検察庁法改正案の見送りも、一人の女性のSNS投稿が大きくなうねりとなった結果です。中(国会)に入ってみて分かったことは、議員の多くは国民



活動報告



日米貿易を巡り茂木外務大臣と



梶山経済産業大臣との質疑



コロナ禍の審議はマスク必着



三密に配慮しながらの国会審議



税に関する勉強会



経済産業省との勉強会



文部科学省の教育セミナーに参加



竹田市教育委員会の皆さん



日田市、中津市の皆さん



大分県農業委員会 会長会の皆さん



当選同期の須藤 元気議員と